

はたらきかた 改革通信 2024 No.6

魅力アップUP↑校支援事業成果発表より

今年度最後の魅力アップUP↑校との会議がオンラインで開かれました。2校からは、何のために働き方を変えていくのか、取組によってどのような効果が期待できるのかなど、校内での合意形成を図りながら取組んできた様子を発表していただきました。また、塩尻市教育委員会からは、来年度に向けて予算化された「学校発 働き方改革実証交付金」を使い、市内の小中学校を対象に様々な取組をスタートさせることが報告されました。

塩尻西小学校

★職員で導き出した新日課を試行しました。(1月)

願い	取組	試行してみた感想 ○良さ ●課題 ◎工夫
朝の時間はゆとりをも ってスタートしたい	朝の開扉時間変更 7:30→7:50に	○朝の時間に余裕がもて、心のゆとりができた(職員) ○起床してからの準備に余裕が出て、しっかりご飯を食べることができた(児童・保護者) ●仕事に間に合わない(保護者)
	課外活動時間変更 朝→放課後に	○朝より放課後の方が、参加率がよかった(職員) ○朝より急ぐ必要がなくなってよかった(児童) ●みんなより下校が遅くなって遊べない(児童)
清掃活動に短い時間 でも目的をもって集中 して取り組ませたい	清掃時間変更 15分→10分に	○短くなり、テキパキと動く児童が増えた(職員) ○喋らず集中してやることが身についた(児童) ●階段掃除が行き届かないので良い方法を考えたい(職員) ◎広い場所にはモップを使う。 ◎廊下は広いので、2日間に分けて掃除をする。
授業準備や教材研究 の時間をしっかり確保 したい	・朝の活動短縮 ・ドリルタイム廃止 ・下校時刻繰上げ 低学年15:10→14:40 高学年16:10→15:30	○放課後に授業の準備ができ、教師としてこれがしたかったんだと実感した(職員) ○宿題をした後、好きなことや趣味に取組めた(児童) ●留守番の時間が増えて心配(保護者)

★試行をしてみてR7年度の方角性を見出しました。

開扉時刻の変更

・7:30→7:40に



10分清掃を確立

清掃道具の補充、分担
場所の見直し、清掃方
法の工夫を実践

下校時刻の繰上げ

放課後の学習スペースや
相談窓口の設置など、
子どもの活動場所を検討

課外活動は 放課後へ

課外活動への参加目的
や継続の意志を確認し、
技能を磨こうとする姿勢
を支援

広陵中学校

★R7プロジェクトを通して来年度の方向を検討しました。

＜日課に係るプロジェクトの校内掲示板から＞



生徒下校後に勤務時間が10分しかなかった。放課後の時間を生み出して、勤務時間内に教材研究や情報交換が行える職場を実現したい。

休み時間の短縮は最終手段にしてほしい。他クラスの友達と楽しそうに話す生徒も多数。生徒のホッとできる時間になっている。



生徒のゆとりを考えると、日課をただつめるというのは一方的な感じがする。スライドの中に「教科会」を位置付けるなど、工夫の余地はありそう。

＜プロジェクトで導き出した方向＞

5時間授業を実現し、コンパクトで元気の出る日課をつくる

授業時数を振り返り、余剰時間数を検証

学 活 4月と3月の余剰分を削減
総合的な学習の時間 5月と10月の余剰分を削減
キャリア教育等の見直し

年間で**35**の授業時数削減が可能に

5時間授業を、週1日から**週2日**に

＜その他のプロジェクトから見出された来年度の方向(案)＞

願 い	取 組	○期待される効果 ●懸念されること
生活記録に係る、生徒と教師の負担を減らしたい	生活記録のICT化 (紙とオンラインのハイブリット化)	○次の日の予定も写真に撮って、帰りの準備の時短につながる(生徒) ○重いかごを持ち運ばずに、PCでチェックや返答ができ、時間縮減につながる(教師) ●手書きで伝わる温かさなど、紙の生活記録の良さが失われる(教師)
・学習評価や授業準備の時間をしっかり確保したい ・テストに係る、生徒と教師の負担を軽減したい	通知票の2期制とテスト回数削減 ※1,2年生 5回→4回 自動採点システムの導入 ※R6年度試し利用	○テストに追われず、じっくりと日頃の学習に取り組める(生徒) ○2期制により、評価対象の資料が増えるため、より客観的な評価につながる(教師) ●テスト範囲が広がるため、問題を絞りにくなる(生徒) ○採点に係る業務時間は、およそ半分になった(教師) ○選択肢(カタカナ、数字、英字)、数式、英単語、英作文を読み取る機能があり、採点への負担が減った(教師)

時間外勤務時間のR5年度とR6年度(4～12月)比較

塩尻西小学校		広陵中学校	
・減少した月数	・減少した時間外勤務時間(平均)	・減少した月数	・減少した時間外勤務時間(平均)
8/9ヶ月	4時間40分/1ヶ月	5/9ヶ月	1時間18分/1ヶ月

両校とも、業務改善への取組によって勤務時間の縮減につなげることができました。また、そのこと以上に、教職員一人ひとりの業務改善に向けた意識改革にもつながり、実効性を高めるための提案が次々に生まれるようになったことが、事業に取組んだ最大の成果だと語られていました。

2校の取組を受けて、塩尻市教育委員会では、R7年度の予算に、働き方改革に係る事業費を計上し、市内全小中学校を支援できる体制を整備しようとしています。

塩尻市教育委員会



★令和 7 年度「学校発働き方改革実証交付金」(1500 千円)を創設しました。

目 標	取 組	内 容	期待される効果
学校発働き方改革実証交付金を創設。改革案を実証し、好事例は積極的に市内の全小中学校に展開していく	①水泳授業の民間との連携 	・民間プールで専門のコーチによる指導(授業者は教員) ・市内 1 小学校から試行	・専門性の高いコーチの指導による、技能の上達や水泳への興味関心の高まり ・室内なので、季節や天候に左右される心配なし
	②共通テスト・AI採点 	・市内の先生と一緒にテストを作成 ・AIソフトによる自動採点システム導入	・小規模校など、教科担任のテスト作成や採点にかかる業務負担が軽減 ・採点業務の時間短縮や採点ミスの削減、回答用紙のデジタル管理
	③清掃方法の見直し 	・モップや掃除ロボットなど清掃用具のアップデートによる効率化を図る	・時間短縮や回数削減で、子どもと向き合う時間を創出

働き方改革は、これまで学校現場の努力や工夫によって進められてきたところが大きかったわけですが、塩尻市教育委員会のように県教育委員会も、現場の先生方を応援し、背中を押せるような施策を来年度以降さらに取組んでいきたいと考えています。最後に、1年間伴走者として支援していただいた、一般社団法人ライフ&ワーク代表の妹尾昌俊先生からアドバイスをいただきました。

①在校等時間の管理、「早く帰ろう」だけでは不十分。多忙の内訳を見る。

時短のプレッシャーばかりが強くなりがち。勤務時間の中で授業準備や会議ができるようにゴール設定することが大事。時短は目的ではなく、手段の一つとして捉えたい。

②これまでタブー視されてきたこと、「伝統だから」「この学校のやり方だから」にもメスを入れて変えてみる。

2校とも試行したことはとても良かった。やってみていろいろな意見を出してみる。そこで、賛否両論が出てくるのは当たり前。賛否両論ある中で、教職員同士で妥協点を見つけていくことが大事。

③そもそも、子どもの在校時間が長い。保護者・地域は一層理解と協力を。

小学校の課外活動は、中学校の部活動と同様、地域や保護者が支える仕組みを作っていくべき。

＜覚えておきたいKey Questions＞

それってなんのためだっけ？ 効果はある？ プラスとマイナスは？ 他の方法はない？ 妹尾先生より



2校の取組から得られた知見を、塩尻市教育委員会様を中心に塩尻市全体に展開していくとともに、いずれは県内の小中学校にも広げていきたいと考えています。来年度もまた、シェアミーティングや生き活きやりがい職場調査等の事業を継続していきますので、多くの皆様のご参加をお待ちしております。



こんな時代だから、ワクワクしたい！！
これからの目指す姿
個人と社会の
ウェルビーイングの
実現

＜お問合せ先＞

長野県教育委員会事務局義務教育課(担当:鈴木、藤木)

電話 026-235-7426 Mail: gimukyo@pref.nagano.lg.jp

こちらから、過去の通信や勤務時間調査の結果などをご覧ください！

